

80 の物語で学ぶ 働く意味

川村真二 経済ビジネス文庫

(まえがき)

幸せに生きるとは、自分を愛し大切にし、考えを深め、能力を磨き、価値あると思える事を考えられた年月・つまり人生で可能な限り行う事です。

幸せになるには ①目標を達成する能力 ②活かしてくれる人・自然に感謝する能力
③足りるを知る・満足する力

これらは全て努力によって獲得できます。本書に登場する人々には

- ① 己を活かして人を活かし、全体を活かそうとする考え方を持っている
- ② 自ら働きかける人 ③ 自助・つまり失敗しても自ら励まし続けることのできる人。

第1章 つよく・やさしく

👉よし俺が取ってくる～本田宗一郎(ホンダ創業者)あだ名は台風、技術者がミスをする
と怒鳴りつけ・スパナを持って追いかけた「オレ達は人様の命を預かるオートバイを
作っているんだ」もう一つは「神様」～米国のバイヤーを料亭に招いて酒宴・バイヤ
ーがトイレに入れ歯を落とし大騒ぎ本田は肥溜めにパンツ一丁で入り手で入れ歯を
探り当てた、風呂に入ってすっかり消毒した入れ歯をバイヤーに渡した、専務で盟友
の藤沢武夫は涙が流れて仕方がなく生涯の友として誇りを持っていると。

👉声が出る限り原爆詩の朗読を続けたい～吉永小百合・父が事業に失敗して小学生
の小百合は給食費が払えず催促されるたびに忘れたと、中学生で子役になり多忙で
も猛勉強して都立高校に合格、日活と契約 1 年で 8 本の映画に出演・出席日数が
足りず私学へ、16 歳で 16 本の映画に出演、20 歳の時に出演「愛と死を見つめて」
で強く生きていこうと思った。36 歳の時に「夢千代日記」原爆症で苦しみ乍らも人に
やさしい女性演じ理想的な女性像・人を愛する事で自らの性を確かめていた。
昭和61年ボランティアで“原爆詩”の朗読会を始めて・声が続く限りは続けたい、
読んでいれば新たな原爆が落とされなくてすむのではないかと、思うと。

👉私は諸君と進退を共にする～田中正造・明治23年第一回総選挙で 50 歳の田中は
衆議院議員選挙に当選・翌年の議会で初めて足尾銅山の鉍毒垂れ流し問題を取り
上げ鉍業停止を要求・以降在職 10 年間終始一貫要求し闘った 73 歳で死ぬ迄鉍毒
問題と戦い続けた。

👉チャレンジとレスポンスの中で活発なバイタリティと相互の信頼関係が生まれる～
土光敏夫・昭和 40 年 69 歳の土光は東芝再建の社長として唯一人で早朝 7 時半に
出社・守衛はビックリ、役員会は 8 時半開始・7 時半から一般社員と会う為に社長室
のドアは開け放し、幹部社員を集め「社員 6 万 3 千人

・雲の如き人材がいて今は眠っている、諸君は3倍頭を使い・重役は10倍だ・私はもつと働く、私は問題を投げかける・諸君も私に問題を投げかけたまえ・私は直ぐ答えを出す」社長も前線でトップ営業を始めた、労働組合にも自ら挨拶に出向いて一升瓶を持参・組合役員は感激した、工場の庭に集合した従業員に話している内に雨が本降りになったが傘もささずに話し続けて全員が傘もささずに聞き入った。

👉これは今迄に頂いたお金を貯めたものです・どうかお使いください

早川徳次(シャープ創業者)両親は2歳の時に病で養子に出され継母は16歳と若く早川を絶えず折檻した、盲目の女性祈禱師の井上は会う度に励まし・その温かさは心に沁み込まれた、9歳の時には継母に内職を手伝わされ・虐められ見かねた井上は飾り職人の親方坂田に頼み住み込み、16歳の時に坂田が事業に失敗30人の職人は四散、坂田が5円のお金に困っていると知り封筒に入れ坂田の寝床に入れた18歳で取引先の巻島から資金面・営業面の支援があり独立、早川は水道のネジを発明し、特許を取り巻島に贈り・巨万の富を得た、シャープペンシルで特許を取って大ヒットするも関東大震災で妻と子供二人を死なせ、工員・工場・会社を失ってしまい、債務返済の為に特許の全てを売り1技師として働き、再起・独立、鉱石ラジオを発明しシャープの名前を付けて大成功、震災で生き残った従業員の殆どを再雇用、行方知れずになった井上の遺志に報いる為に、盲人や身障者の自立支援の現・シャープ特選工業(株)を作った、早川は“人を愛する事は自分を愛する事・人の道も事業の道もこれ以外にはない”と。

👉坂本九は楽しみと幸せを売る男になりたい

平成5年9月16日北海道のアマチュア天文家二人が新惑星を発見小惑星698と命名(ナンバーの6・9・8は作詞家永六輔・歌手坂本九・作曲家村八大を表したもの)「上を向いて歩こう」は大ヒット、この曲で坂本九は大スターになった、歴代全米第1位歌手プレスリー、マイケルジャクソン、マドンナ等と並んで日本人でただ一人坂本九が名を連ね世界各国で1300万枚以上販売、昭和51年STVの「ふれあい広場サンデー九」がスタート、司会の坂本九が障がい者・高齢者を訪問し人々のひたむきな生き方を伝える番組だった～出演者も視聴者も番組から生きる勇気を貰った、この番組は昭和60年9月29日で終わった(坂本九が飛行機事故で亡くなる)

👉私は外務省に背いて領事の権限でビザを出す事にする～昭和14年9月ナチス・ドイツはポーランドに侵攻第二次世界大戦が勃発した、すさまじい勢いでユダヤ人狩りが始まった、ポーランドから多くのユダヤ人が決死の逃避行ではるばるトアニアに来て日本領事館にビザの発給を求めた、日本領事代理の杉原千畝は責任者として対処、ユダヤ人にビザを発給する事は日独防共協定に反し・ドイツから敵対行為でゲシュタポから命を狙われる事になる日本外務省に暗号電報を二度打って指示を仰いだ「発給不可」杉原には妻と子供3人の幼児がいた、妻は夫の心が分かっている二人は覚悟を決めた、一人一人面談して正確に名前を自筆で書く P 2

手間のかかる仕事を毎日昼食もとらず没頭・20日余り書き続け6千人の命を救った

👉 事のならぬはそれを言う人間によるという事をこの若者によって筆者は考えようとした
司馬遼太郎(本名福田定一)～妻はみどり、昭和34年産経新聞文化部記者の時に二人は社内結婚、その時に・後の直木賞の「梟の城」を書いている社長の水野はこれを読んで司馬の才能に心底惚れ込み原稿料を月100万円を提示、いつまで書いて頂いてもよいと、妻のみどりが会社の大切なお金をいくらなんでも新人作家にケタ外れの月100万円も出すのはけしからんと本気で抗議した。司馬遼太郎はこの大金を坂本龍馬の資料収集につき込んだ「竜馬がゆく」は昭和37年6月の産経新聞夕刊に連載が開始されたちまちに大評判となった、妻のみどりが一番初めの読者で原稿の一枚目を読んだ時に“パット光が差し込んできた感じが私の中にあった”と。後年に司馬は21世紀に生きる君達へと題した随筆を子供たち向けに“私には幸いにこの世に沢山の素晴らしい友がいる・歴史の中にいる、この世では求めがたい程に素晴らしい人達がいって私に日常を励ましたり・慰めたりしてくれているのである21世紀の輝かしい担い手の君達はよく認識して欲しい、人間は自然によって生かされている自然に依存して人間他の動植物・更に微生物に至るまで生きている自然を大切にしたい、そして自分に厳しく相手にやさしく素直で賢い自己を確立して欲しい、又21世紀は科学と技術がもっと発達するが君たちはそれを支配して良い方向に持って行って欲しい”と訴えている、更に司馬は「これは本能ではない、だから訓練により身につけなければならない、この根っこの感情がしっかり根づいていけば他民族へのいたわりという気持ちも湧き出てくるそうすれば21世紀は人類が仲良く暮らせる時代になる」と。

第2章 感謝と共に

👉 私を愛して下さった人達と共に死ねれば本望じゃないか～美空ひばりは9歳で初舞台、以来発売したレコードは1011曲、昭和43年新宿コマ劇場で満席の舞台の最中に震度4の地震で舞台は影しく揺れ客は総立ち、その場は幕が下がり一時中断、満席の客からは「お嬢・待っているわ！お陰で生きているわ！」の聲が飛んだ「このファンの為に歌おう！」と全身で思った、幕が上がり割れんばかりの拍手が起った、この時の声援を彼女は生涯忘れなかつた。昭和62年美空は大腿骨骨頭壊死という難病で歩行はおろか立つ事すらも困難になった、医師はこの状態で舞台を踏んでいたのかと驚き、即入院を告げた、翌63年4月に美空ひばりは“不死鳥翔ぶ”と名づけたコンサートで復活し5万人の大観衆が歌声に酔った「悲しい酒」を美空は万感の思いを込めて歌い全39曲歌い終わったひばりは痛みをこらえながら笑顔をつアンに見せ約100mの花道を歩いて退場、待ち構えていたスタッフの手に倒れ込んだ。

👉 三井同族は自分の苦衷も努力もちゃんと知っていてくれた・もう何も言う事はない
藤原銀次郎～明治44年王子製紙は存亡の危機にあつて

三井物産木材部長の藤原銀次郎は王子製紙の専務として入社した異端な改革案を決定それを断行する60万円のお金がなかった、三井銀行も三井物産もけんも・ほろほろで支援しない、三井の総顧問侯爵井上馨に依頼しようやく三井銀行から融資の内諾を得たがそれで更生したとあつては男の意地が許さんという反骨芯が湧き、全知を傾けて各取引先に頼み込み、売上金は現金で貰い支払い手形日数増加という支援を得て資金繰りを改善、自宅を抵当に入れて借りたお金と給与で自社株を買い背水の陣だった、そして改善案を断行遂に銀行からは1円も借りずに三井物産とも取引せず独力で難局を突破し王子製紙を再生・優良企業へと脱皮させた、銀行と物産は藤原に取引を申し出たが断った、両社の重役は藤原をクビにすべきと排斥運動を始め、しかも三井当主にも働きかけた、既に頼るべき井上馨は死去していた、ある日三井当主から呼び出しがあり清くやめる覚悟で三井家に向かった、当主の高棟から「今日王子が立派に立ち直ったのは全くあなたのお陰です・深くあなたに感謝しています、これは三井同族一同がお礼として差し上げたい」と・金一封を差し出された、別れ際にさりげなく「もうケンカはよせよ」の言葉は藤原の心に深くしみ、過去を水に流し銀行と物産の取引を開始した。

👉 人間尊重の出光は終戦に慌てて馘首してはならぬ～出光佐三の創業経営理念は「人間尊重」太平洋戦争敗戦で外地にあった財産をすべて失い、国内では260万円程の借金で存亡の危機に陥った、しかも外地で働いていた社員約800人が引き揚げてくる、重役界の結論は全員辞めてもらい会社が立ち直ったら再雇用するというものだったが出光は「絶対にクビは切らない外地の財産は全て失ったが人という資本が又手に入るのだ・外地で辛苦した人々こそは将来必ず成す事があると信じている」と、それを聞いて重役達は感動した、現実には厳しく出光は心の中で野垂れ死にすると思ったが旧海軍タンクの底油を回収する仕事を歯を食い縛ってやった、逡巡院からラジオ修理の話が持ち込まれ全く経験もなく多くの店舗網を必要とし大きなリスクで強い反対論が出たが出光はこの事業に賭け100店舗開設を目標にして引き受け、翌年には海外引揚者の殆どがこの仕事に従事し元海軍軍人200数十人以上採用してもまだ人が不足、ラジオ修理店が後の石油販売店の拠点の基盤になった。出光は「人間尊重による自力更生で1にも2にも3にも人が中心、人が全てを解決するのである」と。

👉 これまで人様から受けた恩だけはいつまでも忘れたくねえ～古今亭志ん生(落語家)戦時中に開拓民・軍人の慰問で満州に入り大連で敗戦を知った、生活に困窮しみすぼらしい姿で僅かなタバコを金にしようと知人のデパートを訪ねたが体よく断られたがその時見知らぬ石田紋次郎が声をかけてきた(志ん生は数日満足に飯を食べていなかった)「志ん生さん、うちで食事を差し上げたい」と、又肉屋で豚肉を買いこれは志ん生さんからのお土産という事にして下さいと、石田は志ん生の大好きな酒をふるまい奥さんも有名なお客が手土産まで持ってきたと、とても喜んだ、

心の中で手を合わせ涙を奥さんに見せないよう巧みな話術と仕草で悠々とした態度を演じた、石田は内地に持って行ってもらいたい物があると布団・洋服・毛皮のついた外套を取り出し内地に戻ったら頂に行きますから、これを着ていってくださいと、帰り際には家内から肉のお礼にと言って千円の金を差し出した、志ん生は一瞬迷ったが芝居を演じ切り「返ってご迷惑を、それでは」と、無事帰国して石田の息子を探し出し両親の健在を伝えた、数年後石田が帰国し、二人の美しい友情は生涯続いた。

👉 当店はライスだけのお客様を歓迎いたします(小林一三)

～阪急電鉄郊外住宅開発・ターミナル(駅)デパート・東宝映画などを作り“今太閤と称されたが三井銀行では芽が出ず 34 歳で電気事業に取り組み独創的アイデアを連発し大成功者となった、昭和 5～6 年頃の大不況期にサラリーマンを直撃 20 銭のカレーライスさえ諦めて 10 銭のライスだけたのみソースをかけて食べ始めていた、他のデパートではライスだけのお客様はお断りしますと張り紙し阪急デパートは「ライスだけのお客様を歓迎します」と、更に小林は福神漬けとショウガも出さないと、云いつけた、大阪のサラリーマンは圧倒的な阪急百貨店のファンになった。

👉 志を得ざれば再びこの地を踏まず(野口英世)～金銭感覚の麻痺・しかも借金しても殆ど返さず・それでも金を貸してもいいと思わせる魅力があり、左手指のハンディを乗り越えようとするたくましい意志・熱烈な刻苦勉励・研究・巧みな弁舌・達筆、感謝の気持ちの吐露・涙・・・伝染病研究所に於いて日本で初めてペスト菌を発見した。

👉 逞しい強靱な精神と体力を持つ・こんな子供を作る手助けをしたい(小野田寛郎)
～フィリピンのルバング等で昭和 19 年 2 月から 49 年迄 30 年間も戦い続けた、陸軍中野学校で「行き恥をさらしても任務を遂行せよ」と教えられ日本の敗戦ビラを見ても偽ビラ謀略と判断、敗戦 9 年後に部下の一人は銃撃戦で、更に 18 年後にもう一人も打たれて死んだ以降約 2 年一人で戦った、冒険家の鈴木紀夫と会って・その仲介でかつての上司から全任務解除の任務を受けた、帰国した日本は平和だが金銭万能だった・生きる目的を喪失し虚脱状態に苦しんだが日本への生還そのものが国境を越えた善意のお陰だと知ってブラジルに移住・苦勞の末、安定した牧場経営そして日本で「子供達のすさんだ心を癒したい」と“小野田自然塾”を開き子供達の未来に役立つことが人生最後の仕事であると考えている。

👉 このままではいけない・もう一度勉強のやり直し・やりたかった化学の研究をしよう
大村智(2015 年ノーベル生理学・医学賞受賞)劇的な特効薬イベルメクチンを無償で毎年 3 億人に投与されこの悪性感染症は 2020～25 年には撲滅できる、大村は誰よりも先に産学連携を進め薬品会社のメルクから北里研究所に 250 億円もの特許料を貰って研究所の改革をし・経営を立て直し新病院も建設した研究者は他にいない。

第3章 友情ありて

我が国と私共へのあなたの友情を我々は決して忘れない(吉田茂)

P 5

昭和13年、吉田は駐英大使の任を解かれたが駐日米国大使ジョセフ・グルーに会い二人は真に平和を愛する同志として深い親愛の情を感じ、吉田の戦争回避の努力もむなしく、妻の雪子はガンで入院・グルー夫妻は雪子を常に見舞い日米関係悪化で米国は日本からの引き上げを通告したが夫妻は帰国せず雪子の見舞いを続けた10月末遂に不帰、12月日本は米英と戦争に突入。

日本人との交換船で米国に戻ったグルーは軍部独裁を排除し天皇制を維持し日本を民主国家にする事が米国の利益になると説いた、昭和26年9月サンフランシスコ講和会議が開かれ日本の全権は内閣総理大臣の吉田茂だった。

吉田の死後3年に日本政府はグルーに勲一等旭日大綬章を贈った。

👉あんたのことを弟みたいに好きだった(石原裕次郎)

～渡哲也が新人の時に裕次郎が食事中に挨拶すると当時は正に大スターだったが立ち上がって「あんたが渡さんですかどうぞ頑張ってください」と、握手・渡は感動して裕次郎の温かい答礼を臉に焼き付け終生の記念とした。

👉だからこそ僕は憧れとして“ふるさと”を激しく求め乍ら映画をつくり続けてきた

～山田洋次・テレビでの「男はつらいよ」は26回放送され最終回に車寅次郎は沖縄でハブに噛まれて死ぬ、放送直後からフジテレビの会社中の電話が鳴りっぱなしでファンの怒りの声が殺到した山田は元気な姿をもう一度スクリーンに登場させたいと映画化を企画して松竹に出したがそれ迄松竹映画の観客は女性が大半で重役は猛反対したが「城戸社長がやらせてやれよ」と、「男はつらいよ」が上映されると学生や威勢のいいお兄さんたちが映画館に押し寄せた。

山田は常に弱者・労働者の笑いを描いて寅さんに幸せについて語らせ・さくらの長男満男が寅さんに問う「おじさん人間は何のために生きているのかなあ」「うむ～難しい事を聞くな～ほら・あーうまれてきてよかったな！と・思う事が何遍あるかじゃない？その為に人間は生きているんじゃないのか」と。

第4章 死の淵をのぞいて

👉渥美清～みんなに後れを取った今に見ている、何とかして皆に追いついてやるぞ！

「男はつらいよ」で日本中をペース溢れる笑いに包んだ渥美清は病気の巣みたいでチャランポラン中学卒業後も定職につかず20歳の時に芝居の世界に入り劇団を渡り歩き・タバコを吸い・飯を食わず毎日モツ焼きを肴に焼酎を飲んだ、二人の最員の客からその顔色は尋常じゃあないと言われ、踊り子からもその顔ゾツとすると言われ病院に行くと結核ですぐ右肺摘出の大手術で九死に一生を得た、2年半闘病生活し、母親と入院中の叔母さんから「その体はヒビの入った茶碗だってことを忘れないで」の言葉がずっと胸によみがえり「後れを取った金輪際・酒とたばこを断って刻苦勉勵します・一人前の芸人にして下さい」と、浅草寺の観音様に誓った。

👉死ぬ前に一遍やりたいと思うだけです、私達の為に書かれた芝居を

(杉村春子) 昭和 19 年文学座脚本家・森本薫は女優・杉村春子の為に「女の一生」台本執筆を開始、杉村らは稽古に励んだ、3 月 10 日東京は大空襲を受け約 10 万人焼死、上演予定の築地小劇場も消失した、関係者全員が集まり絶望したが杉村が「やりましょう！」と叫んだ。杉村は文学座の全預金 1 万円で公演舞台の提供を求めたが東宝は劇場及び大道具などの無料提供と、破格の厚遇を持って応じた、4 月 11 日から 5 日間上演、初日は 7 分の入り二日目は空襲警報でまばら・3 日は途中まで、4 日は上演前から行列ができ満席、戦時下でも人々は感動を求めていたのだ、命を懸けた初演以降大女優杉村春子は「女の一生」を計 947 回演じた。

(前編)